

学園だより

Vol.74

2004.7
Nara Women's
University



国際交流プラザから記念館を望む(文学部 武藤康弘助教授)

学生生活案内 15

平成16年度就職活動支援行事の日程
日本学生支援機構の適格認定について
後期授業料免除について
生活環境学部新入生宿舎研修
学生相談室から

シリーズ 情報と人間を考える 1
江戸の医療情報——「麻疹絵」を読む

鈴木則子

教養広場 Liberal arts Forum 3

料理(Kochen)はコミュニケーション(Kommunikation)である!
ドイツ料理はドイツ語授業を救えるか?

Stefan Buchenberger

英語と仲よくつきあう方法

中沢 隆

温泉空間

長坂 大

寄稿 私のチャレンジ 6

中田千穂・池田奈生・氏 昌未

海外訪問記 9

イギリス大英図書館でチベット語木簡を調査・・・ 舘野和己

シュレディンガー研究所を訪ねて・・・ 森本 徹

インドのアパレル事情・・・ 諸岡英雄

副学長着任あいさつ 12

井上裕正

大学のユニヴァーサルデザイン化 13

一障害のある学生を迎え入れて・・・ 功刀俊雄

新任部局長紹介・新任教員紹介 14



奈良女子大学

江戸の医療情報

「麻疹絵」を読む

鈴木 則子

生活環境学部 講師
人間環境学科 生活文化学講座NORIKO
SUZUKI

「疱瘡は見目定め、麻疹は命定め」という諺がある。この諺がいつ頃成立したのかは明確ではないが、少なくとも江戸中期には普及していた。現代人の先入観では、疱瘡こそ命定めと思われるのだが、かつては麻疹もまた致命する危険性の大きい病気だった。

また江戸時代の麻疹は、長い流行周期を持つという点でも、現在と異なる。麻疹はおおそよ十数年から二十数年の周期で流行し、ために小児だけではなく、流行に遭遇しないまま成人した大人も大勢発病した。成人の麻疹は、一般的に子供よりも重症になりやすく、このことが江戸時代の麻疹を、一層重い病とさせたのだろう。史料上は、江戸時代を通じて十四回ほど流行したことが確認できる。ことに江戸時代最後の流行となった文久二年（一八六二）の麻疹は、おびただしい数の病人を出したことで知られる。

だがこの年の麻疹が特筆に値するのは、流行の規模よりも、むしろ様々な麻疹養生の禁忌に関する情報飛び交って、社会が大混乱に陥った点にある。すなわち、入浴、月代、房事、音曲、酒、魚、特定の野菜、果物、蕎麦などが、病中はもちろんのこと、「後養生」と称して病後も数週間から、長ければ百日間にもおおよんで禁忌とされて止められた。よってこれらに関連する風呂屋や床屋、遊郭、酒屋、魚屋、八百屋、

煮売屋、蕎麦屋などの諸商売が成り立たなくなり、不況に陥る。その一方で、医者や薬屋が大繁盛し、薬価が暴騰するという経済的混乱が生まれた。また病後数週間に渡って安静を保つ人々が続出したために、労働力が払底し、様々な社会機能が麻痺した。

麻疹の禁忌情報を、大量に巷に流すのに大きな役割を果たしたのが、「麻疹絵」と呼ばれる一枚刷りの木版画である。麻疹絵の内容は禁忌情報以外にもいくつかの類型があり、麻疹の治療薬や病因の説明、まじない、過去の麻疹の流行年表、麻疹で儲かった商売と損をした商売の風刺画、麻疹に罹った人気歌舞伎役者の病床の絵姿、麻疹神などが描かれた。

麻疹絵のほとんどは文久二年に発行された。これまでその理由は、この年の流行が特に激しかったことに求められ、当時は医学が未発達で有効な治療法がなかったために、麻疹絵が発信する禁忌やまじないといった迷信が、広く受け入れられたの



だと考えられてきた。

しかしながら改めて調べていくと、いくつかの疑問が浮かび上がってくる。まず医学書を見ると、文久二年だけではなく、享保五年（一七三〇）や享和三年（一八〇三）の流行時も、かなりの病死者が出ていることがわかる。それなのに麻疹騒動は、文久二年の江戸でしか起こっていない。

また現存する麻疹絵は、ほぼ全て江戸のみ、短期間に大量に刷られて流通した。江戸時代の日本では、麻疹に限らず殆どの伝染病は、桜前線の如く九州から始まって北上していく。文久二年の麻疹もまた、九州から関東帯にかけて漸次流行した。それなのに、何故江戸でのみ麻疹絵は普及したのだろうか。

さらに、麻疹禁忌を無知蒙昧な庶民の、素朴な迷信として片づけるにはいかにないのではないかと、疑問。たとえば沼津藩江戸屋敷では、麻疹が治っても病後の禁忌を守るために役人がこぞつて欠勤し、政治機能が麻痺、あげくの果てに下級藩士数十人が、病後養生を理由に「斉に帰国を願い出るといふ事態が発生した。

そこで、江戸時代に読まれた中国医学書を調べてみると、麻疹絵に描かれた禁忌やまじないの多くは、当時の医学的知の最高権威だった中国医学書が情報源であったことがわかる。病中病後に禁食とされた食物は、中国医学が疱瘡や麻疹の

際に禁じた食物と一致する。もちろん日本と中国とは食習慣が異なるので、全く同じ食品が列記されるわけではなく、麻疹絵では日本人の食習慣に合わせてアレンジされる。

また、従来の研究がまじないの二つとみなした、「西川柳」という種類の柳の葉を描いた麻疹絵がある。これも享保期の日本の医学書に、西川柳は最近中国から輸入された麻疹の新薬であると書かれていて、この麻疹絵が迷信を描いたものでないことがわかる。

麻疹絵が発信する、このような禁忌や薬の情報は、文久の時点で突然人々の注目を浴びたのではなく、それまでも流行のたびに、口づてに広がっている。享和三年の流行以降は、医者や人気戯作者の手になる、素人向けの麻疹情報書も出版されるようになっていた。

それが文久の流行時でのみ、麻疹禁忌のために社会経済が混乱したのはなぜだ

ろうか。もちろん幕末の内憂外圧による、政治的混乱期であったことも考慮されねばならない。が、ここでは生活文化の側面からその背景を考えてみると、二つには麻疹情報、麻疹絵という手軽な枚絵を通じて、迅速かつ安価に売買されるようになったことがあげられる。天保改革以降、権力者への風刺以外に、江戸の突発的事件も錦絵化されるようになるが、それらの錦絵は、いくつかの工程を省略したため、早く大量に流通させることが可能となった。先駆的事例は、安政二年（一八五五）の江戸大地震を扱った「鯨絵」であり、これに続いたのが、文久二年の麻疹絵だったのである。

都市の医療事情も考慮する必要がある。麻疹は長い流行周期のために、各家庭で経験が蓄積されにくい、特に故郷を離れ、単婚小家族を形成することの多い江戸ではそれが難しい。そこでメディアによる情報に頼らざるを得ず、医療情報の市

場化が促進された。

都市生活の展開も指摘されねばならない。麻疹の禁忌騒動は基本的に、豊かな都市生活とそれを支えるサービス産業への打撃である。麻疹の禁忌が否定したのは、毎日銭湯で入浴し、遊廓で買春し、飲酒習慣をもち、小唄・三味線などの音曲に興じ、全国各地から集まる多様な食材を楽しむ、また煮売屋・そば屋などの外食産業に頼る、都市の生活文化だった。

このように考えていくと、麻疹騒動は幕末の江戸ならではの現象で、同じように麻疹が流行しても、他の時期や地方都市では起こりようもない。文久の麻疹絵から読みとるべき事柄は、医療や人々の合理的思考の未発達ではなく、むしろ近代化に向けて胎動を続ける、巨大都市江戸の姿であろう。



料理 (Kochen) Ⅱ
 「Mitteln」ケーシモン (Kommunikation) のあな...
ドイツ料理はドイツ語授業を救えるか？

シユテファン・ブーヘンベルゲル

文学部 外国人教師
 言語文化学科 ヨーロッパアメリカ言語文化学講座



STEFAN
 BUCHENBERGER

「ドイツ語の授業は退屈でつまらない」「文法が難しい」「読本の内容は堅苦しい」「会話の練習はなんか不自然」... 学生たちはよくこんな不満を口にします。

たしかに文法や読解はドイツ語の授業になくしてはならない要素ですが、ドイツの日常の生活文化に関する生きた情報も忘れるわけにはいきません。なかでももっとも重要なのが「食文化」です。

私は学生のみならずドイツ料理を「学び」そして「経験」できるようにするために、次の二つの場を提供しています。

一つ目は、NHKテレビの「ドイツ語会話」です。私は月に一度この番組に出演し、月替りの料理と、それに合う飲み物を紹介するとともに、ドイツ料理の伝統についても説明をしています。そういった説明とレシピは、毎月のテキストにドイツ語と日本語で掲載されますので、誰でもレシピに倣って料理をしてみることが、わが家の台所をドイツに変身させることができます。さらに、料理に関する日常会話も覚えられますから、ドイツに留学するときにきつと役に立つでしょう。

二つ目は、学内でのドイツ食パーティーです。奈良女子大学生協のご好意とご協力により、すでに大小二回のドイツ食パーティーを開催し、学生の皆さんに本物のドイツ料理を味わってもらったことがで

きました。一度目は昨年のクリスマス・パーティーで、少人数でしたが、ドイツのクリスマスに欠かせない「グリューヴァイン Glühwein」(香料と砂糖を入れて熱した赤ワイン)を作り、大好評でした。二度目は今年の二月、五十人



近い大勢の参加者に、私の故郷バイエルンを代表する料理「豚肉のロースト (Schweinshaten) 黒ビールソース、焼きじゃがいも、キャベツサラダ添え」を披露しました。この日はNHKのスタッフも撮影に来ており、学生たちは料理を楽しみながら、プロの写真撮影風景を垣間見ることができました。次回は五月二十八日に屋外ビアガルドンでの「軽食Brotzeit」の形式をとる予定です。今後とも、興味のある方はぜひご参加ください。

ここでご紹介したような活動は、もちろん、ただ美味しいだけではありません。同時にそれは、和やかな雰囲気のおかげで、お互いの考えを語り合ったり、ドイツについて、勉強について、ありとあらゆる質問を交わしたりするのに打ってつけの機会となります。習い覚えたドイツ語を、気軽

に使用して試してみることができません。そばにいる先生や先輩がいつでも助け舟を出してくれるので心配いりません。九月に予定しているドイツでの語学研修についての情報や、ドイツやオーストリアへの留学情報も得られるでしょう。こうした自由な情報交換の場に、ひとりでも多くの皆さんに加わっていただきたいと思います。

このように、ドイツ料理は、単にドイツの食べ物について知るということを越えて、ドイツ語学習の重要な一部となり得るのです。他者をより深く知り、その文化を経験するためには、おそろしく、「ともに食べ」「ともに飲む」ことが何よりの方法だと思えます。なぜなら、「料理 (Kochen) は「Mitteln」ケーシモン (Kommunikation)」だからです。

※「ドイツ語会話」の放送は、教育テレビ、水曜日23:30〜と(再)月曜日6:00。



英語と 仲よくつきあう方法

中沢 隆

理学部 助教授
化学科 基幹化学講座



TAKASHI
NAKAZAWA

十年近く前、在外研究で英国に九か月暮らすまで、英語はストレスの元であった。仕事で読む雑誌はほとんど英語だし、論文は英語で書かなければならないときている。それが英語の本来本来にきてしまったのだ。住み始めた頃、唇食を買いに入った。パン屋さんで、中学校で習ったように「玉子とトゥweitowのサンドウィッチを下さい」と言ったら怪訝そうな顔をされた。ここではトマトと関西風に発音するのが正しい。一部の関東人にはこれが苦痛らしい。カプチーノはtwo cups of teaよりtwo teasの方が普通だった。逆にカプチーノを注文した時cup of teaと間違われてお茶が出てきたが、こうした経験をもつ日本人は稀でない。おまけにWriter(ミルクはいかが)とくる。中学校以来悩まされてきた試験とは無縁の英語に初めて親しみがわいた。反対に、東京から来た英語学者か英文学者が「国語の乱れ」を愚痴っていたの思い出す。大方お茶を注文してカプチーノでも飲まされたのである。

分厚い英英辞典を2冊買ったなら、じきに英和辞書が要らなくなった。人に日本語で講釈しなくてよくなり、全部判らなくても命に別状ないわいと開き直ったからである。ここではバイリンガルを気取る必要がないのだ。法律や哲学の類の英語で悩むつもりも全くなかった。初め、テレビは電力を浪費するばかりだったが、週度晩八時頃放送されていたOne Foot in the Graveという、頑固爺さんと鋭い突っ込みで対抗する奥さんの漫才の Comedy 版みたいな番組を観るために実験の予定を変えたことはある。近くの電器屋さんで借りたソニーのテレビには、英語の字幕が出せたが、当然笑いの半分にもつて行けない。ところが高速道路沿いの標識にStreetlightとあるのを見てふと空腹を覚えた日帰りバス旅行の数週間後、何とこの番組でケータリングとこの田舎町の名前をかけたギャグが出てきた。この些細な経験が大した自信になったことは間違いない。これ以来、テレビを観光案内にした旅行に忙しくなった。その頃、夏

目漱石が激賞したというジーン・オーズテインの小説Pride and PrejudiceをBBCがドラマ化した。その舞台の二にダービー地方で一番の金持ち独身領主が住み、ロインの心をぐらつかせた壮麗な館がある。そのロケ地となった「Yare Dane」を見物する念願は昨年のマンチェスター訪問で、ようやくかなえた。

ある晩、テレビにどこか見なれた風景が映っていた。Chariots of Fireなわち「炎のランナー」である。もっとも撮影に使われたのは王室御用達のイートン校だったとは後になって前理学部長の高木先生から教わった。学長に人種差別的発言をさせる台本にケンブリッジ大学当局が力チンときて学内での撮影を認めなかったためだそうだ。この名作が日本語版になるとなぜか「ポリスアカデミー」風に変質してしまう。英語字幕付きDVDでの鑑賞をお奨めしたい。最近BBCがドラマ化したエリザベス・ガスケルのWives and Daughtersは掘り出し物だった。これを観たのは、作者の珍しい名前がマンチエスターで研究室を案内してくれた質量分析学の教授と同姓だったのがきっかけである。今度会ったらこのビクトリア朝の小説家との関係を是非確かめてみたい。英語に限らず外国語と仲良くなることの効能には計り知れないものがある。

温泉空間

長坂 大

生活環境学部 助教
人間環境学科 住環境学講座



DAI
NAGASAKA

毎冬、各種雑誌で温泉特集が組まれ、テレビでは各地の温泉映像が流れている。温泉を楽しむ情熱と才能に関して、日本国民は世界に誇っていいだろう。おそらくそつう事情もあって、「温泉」という言葉は効能のあるお湯だけを指すのではなく、お湯を契機とする体験式を指す言葉として認識されているのである。山奥の旅館に泊まり、おいしい料理を食べ、浴衣



のそぞろ歩きを楽しむといった、現世から離れた非日常的空間体験の総体を「温泉」という言葉に込めているのである。僕がこれをはじめて実感したのは韓国旅行であった。プサンを出発して海岸沿いの中小の街や村のたたずまいを見て廻っていたときである。ガイドブックの表記に誘われて内陸側のある温泉街を指したのだが、たどり着いてみるとそこにあったのは、整地されて開かれた地形と市営プールのような建物、そして広い駐車場であった。私は心のどこかで、奥まった地形にすっぽりおさまった山奥の谷あ

いの村落に、ひなびた日本家屋の代りの伝統的韓国集落のたたずまいがおさまっていることをイメージしていたのである。全く勝手な思い込みである。しかしとにかくそうした気分で訪問してしまった観光客にとって、温泉につきり、アカスリをしてもらい、加えて各種設備がとてもしっかりかつ機能的にできていたとしても、どこか満たされない思いは残ってしまう。我々の温泉気分を支えているのは、やはり、ひだをなす山岳地形がつくりだす奥まった場所であり、そこにつくられた建築群と植生の醸し出す、どこか翳りを帯びた空間なのである。

地形がもたらす空間構成の力をだめ押しのように知らしめてくれたのはオランダの国土である。行けども行けども平らな地形を移動する経験は、起伏のある地形が生み出す風景の多様性と、それが心にもたらす陰影豊かな情感を知る機会となった。

建築家の槇文彦は「見えがくれする都市」の中で日本の都市空間における「奥」の概念を提示している。日本の都市には「奥」と呼べる場所あるいはそうした位置関係が存在し、たとえば百メートルや十メートルといった小さな距離の中にも、相対的な「奥」を認識し、奥に至る道を設定

している。このことにより、重層化された空間のひだと、何故ひだをつくるかとするのかという日本人の空間感、大げさというならば宇宙感を納得することができる、というのが、このことである。

「温泉が日本文化のひとつだとすれば、それを支える地形と都市建築という連の舞台装置は研究に値するのではなからうか。温泉が、オジサン族ばかりでなく若い女性をはじめとする国民一般の興味の対象となり始めた時期は、日本の国土が、その「奥」なる空間を失ってしまった時期となぜか重なっている。よく知られているように、近代都市計画の失敗は、機能性(経済的合理性)を重視するあまり様々な自然や歴史が織り成す多様性を軽視してきたことにある。その弊害として、わが国の国土や都市空間はその奥行きを失い続けてきたのである。だとすれば、こうした研究は単なる温泉街再生のための研究ではなく、ささやかであるとはいえ、戦後のわが国が、その経済発展の代償として失い続けてきた、人間の生活のための空間の資質を再認識するための端緒となると思うのだが。

「勢い」って 意外と必要!

中田 千穂

文学部 人間行動科学科
スポーツ科学専攻 四回生

CHIHO
NAKATA

昨年の五月ごろ、助手の先生からあるボランティアのお誘いを受けた。私の返事は、「はい、いいですよー」と、まさに二つ返事だったが、この二つ返事が、私の最初の第歩だった。

そしてそのボランティアでお世話になった職員の方(専攻のOG)に更にお世話になり、かねてから度はやってみたかった「車椅子バスケット」のチームを紹介していただいた。といっても厳密には「車椅子バスケット」ではなく「ツインバスケット」。ちょうど私の地元で練習しているそうなので、その二つの違いが良く分からないまま、またしても「じゃあ行きますー」と勢いだけで二つ返事。

そして勢いに任せて、話だけ通しておいてもらった体育館へ。いきなりの訪問にもかかわらず、その場に居合わせた方々は、すんなりと受け入れてくださった。そして、ここでやっと私は「ツインバスケット」は何かを知ること。

「車椅子バスケット」と「ツインバスケット」との違いは、「ツインバスケット」は主に頸椎損傷者を対象としているという点である。頸椎というのはいわゆる「首の骨」のこと。ここを傷めると首から下の部位に麻痺が出る。そのため殆どの人が日常生活でも車椅子を利用している。手や腕の力も

弱い。その障害の程度は個人によって違うので、上半身が比較的自由に動かせる人は、私達が使う高さのリングにシュートが打てるが、重度の人は腕を上げることでも困難なために「上のリング」に届かない。そこで、「低いリング(円内のリング)」が設けられている。高さは120cmで、フリースローサークルの中心に置かれている。それがツインバスケットの大きな特徴であり、その名前の由来らしい。

というわけで、その日から私のツイン活動は始まった。私の仕事は、バスケット用の車椅子(通称バスケット車)や、ボールなどの荷物を選手の車から降ろしたり、選手が生活用の車椅子から乗り換えるのを手伝ったり。手でタイヤを止めるため、選手はゴム手袋(指めき)をしているので、それが外れないようにテーピングを巻いたり、「フット」と口出ししたり、時にはバスケット車で十分間走をしてみたり…本当はもっと手伝えることもあるけれど、動作は遅くても一人でできることであれば、それは手を出してはいけないことだし、出さなくていいこと。そのラインはとても難



しいけど、ちゃんと引いておかなければならない。と勝手に思っている。それに、彼らを見ていると、「きつとこまで来るには想像できないほどの苦労があるはずなのに、何でこの人たちはバスケットをこんなに楽しめているのか…自分は全身自由に動かし、手も器用だし、目も歯もいし…なのにこの人たちより何となく楽しめない気がする! 損やん!」というライバル心のようなものまで生まれてくる。まして、五月に全国大会に出場するなんて!

と訳の分からない悔しさがあつたりもする。

それでもまだまだこのツインバスケットチームに惹き付けられ、バスケット選手としてのプライドから、チームにライバル心を抱きつつ、これからもできる限りこのチームにくっついていくのだと思う。そしてそれがこの先の大きな歩へと繋がっていくことを願っている!

チャンスを掴む

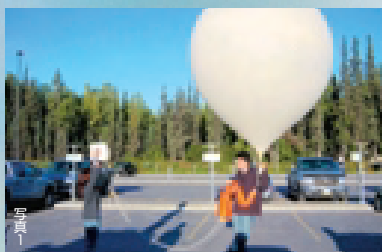
アラスカでの体験

池田 奈生

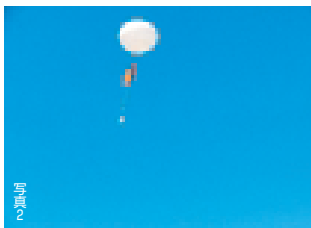
大学院人間文化研究科
複合現象科学専攻 1 回生

NAO
IKEDA

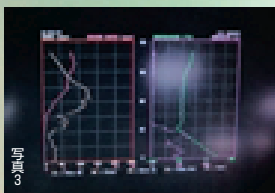
私は去年の八月二十日から十二日間、日本が打ち上げた「みどりⅡ」衛星に搭載された改良型大気周縁赤外分光計 (VAS-II) の検証実験を行うために、アラスカへ行かせていただきました。検証実験とは VAS-II が宇宙から観測するオゾン的高度分布が正しい値かどうかを調べるために、VAS-II の観測イベントと同時に、向場所(地上)から「オゾンゾンデ」(巨大な風船にオゾンを測る測器をつけたもの)を打ち上げてオゾンの高度分布を観測することです。



私は普段は観測結果をいただいてきて使用する立場なので、観測自体したことがありませんでした。どんなに複雑な装置を駆使して実験を行うのだろうと想像しながらの参加だったのですが、実際の装置というのは写真1にあるようにとても小さく、シンブルなものでした。写真の発泡スチロールの箱の中にオゾンを測る測器が入って



十二日間(間に二二個のオゾンゾンデをあげました。この風船は高度約30kmまで上昇し、最後は破裂して落ちて行きます。上昇している間、数分ごとに計測したオゾン量が送られてきます(写真2)。この写真は送られてきたデータをリアルタイムで表示している画面です(写真3)。このようにしてオゾンが実際に計測されていくのを見ると、改めて地球の大気にはオゾン層が存在していること、さらにこのオゾン層が地球を守っていることが実感できました。



八月の終わりにになると白夜も終わりはじめるため、数時間の間、真っ暗な夜が存

在します。幸運なことに、私はオーロラを見る事ができました。それまでオーロラは写真でしか見た事がなかったので、非常にゆっくりとカーテンが揺れるようなものを想像していました。しかし実際に見ると動きがとても早く、オーロラが出たと思ったら瞬時に夜空から消えてしまい、まるで天体ショーをみているかのようでした。



私がこのような素晴らしい体験ができたのは指導教官の林田先生のお力添えを頂けたことが大きいのですが、同時に私自身が「行きたい」というアピールをしてこのチャンスをつかむことができたことでもあると思います。私がもし最初にお話をいただいたときに「二の足を踏むような返答をしていたら、このようなチャンスを得ることはできなかったと思います。「チャンスは前髪でつかめ」という言葉にもあるように、チャンスは瞬で目の前を過ぎ去っていくものです。みなさんも是非この瞬間を逃さずに捕まえて、今しかできない体験をして下さい。

Challenge

一つの活動を通して 得られるもの

氏 昌末

大学院人間文化研究科
生活環境学専攻 一回流生

MASAMI
UJI

他大学から奈良女子大学大学院に入学した私にとって、入学してからの二年間は学部時代の四年間を濃縮したような非常に中身の濃い一年でした。それは研究活動に関しては勿論のこと、研究以外の学生生活に関してもです。新しい環境の中で新たに学ぶ学問、新しいメンバーと行う実験、初めて参加する学会、多くのことが新鮮であり複雑であり、様々な刺激を受けました。二回生になった今も様々なことをさせてもらっていますが、そんな研究生活を送れるのは、研究以外に奈良女子大学剣道部での活動があるからです。

研究と剣道、一見関係なさそうな二つの活動ですが、私にとって剣道が研究を含む他の活動への起動力(自他共に認める身体の丈夫さ、基礎体力)を生み、自分自身を保ち、自分自身を見直す機会となり、そして共に稽古する仲間達が精神的な「支え」となっています。

剣道というと、伝統を重んじ厳しく辛くというイメージを持つかもしれませんが。実際、稽古は厳しく痛く(気付かないうちに青痣が至るところに存在、夏は蒸し風呂状態の中、冬は水のように冷え切った床で練習です。心拍数が異状になる程激しく稽古することもあります。それでも私が剣道が続けるのは、稽古の後の充実感や達成感、辛い稽古を励まし合い共

に頑張る仲間達との連帯感、剣道を通して先輩や後輩、高段の先生方など、多くの素敵な人達との出会いがあるからです。

十八年間、剣道をする場所は富山、熊本、奈良と移り、その時々々の剣道環境や自身の立場も変わりましたが、剣道を通じて出会った人達は皆何にも代えがたい私の財産となっています。この大学に来てからも、余所者だからと拒まれることなく、親身になって指導して下さる師範、部長、監督、コーチ、OGの先輩方、共に練習し励まし合える仲間達に出会いました。

今、現役剣道部員に混じって稽古していますが、一生涯命稽古に取り組む彼女達に、パワーを分けてもらっています。彼女達は信頼のできる、かけがえのない仲間達です。私は剣道を通して多くの素敵な人達と出会い、多くの支えを得てきました。

人との出会いは更なる行動を生む源だと思えます。これまでの人との会いを大切にし、そして新たな出会いを求めて思い切って自分から新しい環境に飛び込んでいくことは、多くのことを学ぶ上で重要だと思えます。大学には様々な人が集まります。生まれ育った場所も違えば考え方も違います。そんな人達との出会いが大学で得られる大きな財産だと思えます。様々な人が集まる中、様々な考え方も持つ人達と一つの活動を通して得られる

物は、ただ受身的に生活しているときよりもきつと大きいはず。

研究にしても、剣道にしても、自分から飛び込んで来る人を受け入れてくれる環境が奈良女子大学には備わっていると思います。私はこの大学で出会った人たちが大きな財産、心の支えとなっています。悩



むことも多々ありますが、それでも今私がお置かれている環境は恵まれており、そのことに非常に感謝しています。私はこの大学で得た多くの支えと剣道で培ったこの心身でこれからも様々なことに挑戦し、多くのことを学んでゆきたいと思えます。

イギリス大英図書館で
チベット語木簡を調査

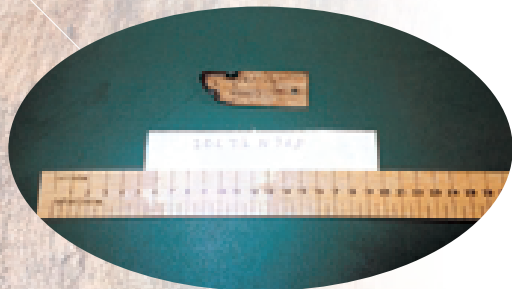
舘野 和己

文学部 教授
国際社会文化学科
古代文化地域学講座KAZUMI
TATENO

二〇〇〇年度から三年間、毎年ロンドンを訪れる機会があった。中央アジア出土のチベット語木簡をテーマとした神戸市外国語大学の武内紹人氏の科研の共同研究者としてである。チベット語の木簡と言っても、出土したのは中央アジア、タリム盆地のシルクロード沿いの遺跡で、時代は八世紀後半から九世紀中葉。当時唐に替わりこの地に支配を及ぼしたチベット(吐蕃)の軍事基地で使われていたものである。約一〇〇年前にオーレル・シユタインが採集した二二〇〇点ほどの木簡が、九八年に大英博物館から離れて新宮なった大英図書館に所蔵されている。

毎年約一週間、二人でハムステッドのホテルから地下鉄かバスで通い、朝九時半頃から夕方七時頃まで、図書館内の所蔵品の保存修復を担当するスタジオにスペースを作ってもらい、日本人も含めたスタッフの協力を得ながら、ひたすら木簡を観察し続けたのだ。砂漠地帯から出土した木簡は乾燥し、整然と箱に収納されている。もとよりチベット語の読めない私は、木簡の形、大きさ、製作技法、使用法、再利用の仕方など、日本木簡と比較しつつ外形から判断できることを調べていった。そこは閲覧室とは離れた場所なので、大英図書館に通ったとは言っても、図書は見ないままに終わってしまった。

木簡のほとんどは幅一〇センチ、長さは一〇センチから二十五センチまでで、日本の木簡と大差ない。表裏面とも平滑で、丁



寧に作られているというのにも似ている。ただチベット語は左から横書きされるから、木簡も当然横長にして用いられている。

チベット語木簡の特徴はさまざまあるが、それは別に譲るとして、興味深かったのは、不用になった後で再利用のため、形を変えているものが多いことだ。スプーンのように用途が推測できるものもあるが、ただ木簡の端に丸みをつけ、しかもそこが焦げているものもかなりある。どう

も焦がして堅い物にすりつけて、丸くしたようだ。これは体何に用いたのか。直感的に浮かんだのは、トイレペーパーの役割ではないかということ。日本の木簡にも、縦に割って細くして、同様の機能を果たしたものがある。

しかしそれは直観であり、あまり大きな声では主張できなかった。シユタインの紀行文の邦訳にはそれらしい記述があるが、確実な証拠がほしいと思いつながら帰国した。そして昨年十二月、木簡学会で報告することになり、前口になって漸く彼の報告書「SERINDIA」を読むことができた。そこには探していた記述があった。木簡出土遺構はチベット兵士たちの「甲冑」(野宮地での臨時のトイレ)であったと書いてあったのだ。こうしてギリギリで、漸く直観に裏付けを与えることができた。

木簡漬けの毎日を楽しく過ごし、疲れて図書館を後にすれば向かう先は、もちろんパプ。ロンドン名物のパプは、図書館のそばにも多数あり、どこも賑わっている。武内氏と大学時代の同期という縁が、チベット語木簡や図書館スタッフとの出会いを生んだ、その感慨とともに味わった毎日のビール。今度またいつか、同館所蔵の敦煌出土木簡で味わってみたいと思っている。

シユレデザインガー 研究所を訪ねて

森本 徹

理学部 教授
数学科 構造数学講座



TOHRU
MORIMOTO

今年の二月四日―十二日ウィーンのシユレデザインガー研究所へ出かけた。「カルタン接続に関連した幾何と解析の問題」というテーマのプロジェクトが二月から四ヶ月間に亘って研究所で実施され、この期間中関連研究者が世界各地から集まり、講演、セミナーや共同研究を進める。カルタン接続はエリー・カルタンによって創案された一般化された空間概念であり、今日、幾何や解析のいろいろな場において重要な役割を演じている。これまでの私の理論の中で、カルタン接続が存在するため

の一般的な判定条件と構成方法が得られ、いろいろな応用を見ている。このプロジェクトとは極めて関係が深いので、参加を求められていた。教室主任に当たっていて外国出張は難しかったが、プロジェクトの最初の週間だけでも出席することがで

きた。年頭にもかかわらず多くの専門家が参加し、いろいろ実質的な討論ができた。また、私の講演がこのプロジェクトの最初の講演となったが、講演のあと駆け寄りきょ extremely beautiful と讃辞を寄せてくれる友を得る喜びもあった。

音楽の都ウィーンは、音楽に限らず文化のいろいろな分野で傑出した人物が、特に十九世紀から二十世紀の初頭にかけ、数多く輩出している。学生時代ドイツ語の授業で読んだツバイクやホフマンシュタールの特異な世界が思い出されるが、物理学でも独特の伝統があり、マッハ、ボルツマン、シユレデザインガーなど優れた人物が出ている。ロシア人数学者ピノグラードフからウィーンの数学者ミシヤールへの手紙がきっかけとなって、The Erwin Schrödinger International Institute



研究所の近くのウィーンの街角



静かな回廊も時にはパーティーで賑わう

for Mathematical Physics はウィーンで一九九三年に創設され、東西ヨーロッパの要の位置にあって数学と数理物理学の国際研究機関として活発な活動を展開している。毎年三〇〇人を越える訪問研究者があり、これまでに千部を超える Preprint を発行している。大学の直ぐ近くホルツマン通りのカトリック神学校の三階を借り、二〇〇年を経る美しい建物を研究所としてうまく改装している。中庭を見下ろす回廊は天井が高く静謐が満ち、回廊の窓の反対側には黒板が張り巡らされ、思索や討論の場として素晴らしい環境を作り出している。さらに驚くべきことは、トイレの二キャビネットが六畳を超える広さを持ち壁には黒板さえ用意されているという驚沢な演出。奈良で古いお寺を借りこのような研究所ができたらさぞおもしろいだろうと夢想し、また奈良はそのポテンシャルを十分持っているのではないかと思ったりもする。

ひととき、美術史博物館を訪ね、昨春来た時はマドリッドへ貸し出し中に見えることができなかったフェルメールの作品「芸術家の工房」を小時間ゆっくりと楽しむことができたのもまたウィーンの贅沢の一つであった。

インドのアパレル事情

諸岡 英雄

生活環境学部 教授
生活環境学科 アパレル科学講座



HIDEO
MOROOKA

昨年十一月末から十二月初めにかけてインドのデリーとその周辺都市を訪問する機会を得た。インド訪問の目的は、第七回アジア繊維会議とインド国立ファッション工科大学で開催されたセミナー「アパレルの製造とマーケティング」への参加および衣服事情調査である。アジア繊維会議の参加国は計二十ヶ国で、オーストラリア、バングラデッシュ、チエコ、中国(香港)、エジプト、フィンランド、ドイツ、インド、イラン、日本、韓国、ニュージーランド、ポーランド、台湾、スリランカ、スイス、イギリス、アメリカ合衆国、ウズベキスタンであった。発表件数からみると、韓国が二位で六十四件、二位がそれぞれ二十五件のインド、イラン、台湾、三位に中国の十七件、四位に日本の十二件が入り、日本の繊維関連の学会発表件数からすると、日本の参加者はごく一部の人たちである。発表内容は、川上(繊維)から川下(アパレル)などまでの広範囲の分野にまたがっていたが、従来から言われているように、アジア諸国の主たる関心はまだ糸、布、衣服の単なる物作りおよび販売にあるようである。日本の場合は、人間に適合する健康・快適で安全な物作り等のレベルにあり、日本の繊維関連科学は世界の先端を走っていると思われる。しかし、日本には全く見られない繊維関連教育に関連する発表が中国(香港)に三件見られ、被服学科が

激減した日本の被服学分野はその再構築のために教育方法を根本から研究する必要を痛感した。

国立ファッション工科大学では、午前中の講演の後、学内の施設を見学したが、二十〜三十年程前の日本製マシン(シユーキ製、ブラザー製など)が四十台ほど並べてあり、良い縫製をどのようにしたら良いかなどに関心があるようであった。

ところで、インドの民族服と言えばサリーが有名である。サリーとは、幅1M前後、長さ5〜6Mの一枚の布を美しい襞を作りながら身体に巻きつける衣服で、上半身にはチョーリーという体に密着したTシャツ様の衣服も着用する。今回のインド訪問にあたって、インド女性がどの程度頻繁にサリーを着用しているのかを確かめたいと思っていた。サリーを着用する女性是比较的多く見られたが、中高年女性が主で、写真1はアグラへ向かう途中に立ち寄った休憩所にいた叔母さんで、ピンク色が美しいサリーを着ていた。



サリーの欠点は裾にあるようで、裾が地面につき、汚れやすい点が気になった。若い女性の多くは下衣にサルワールというパンツと組合せるパンジャビスーツを着用しているようで、写真2は濃い緑色パンジャビスーツが似合うお嬢さんの例である。



また、写真3は黄色のドレスを着た娘と父で、この雰囲気現在のインドを象徴しているように思われた。



国立大学法人化にあたって

井上 裕正

奈良女子大学 副学長
(教育・学生支援担当)



HIROMASA
INOUE

この四月一日から奈良女子大学は、国立大学法人法に基づき、国立大学法人奈良女子大学に生まれ変わった。いわゆる法人化である。法人化によって、奈良女子大学は文部科学省の内部組織から、一定の独立した組織体に変わり、これまで以上に大学独自の考えで、より個性豊かな魅力ある大学になるよう大学運営に工夫を凝らすことができるようになった。ただ、「大学独自の考えで」とは言っても、財政的には学生納付金と税金に支えられているからには、大学の透明性を確保するなどして自己責任の重さをしっかり認識して、学生や納税者に対する説明責任を果たさなければならぬ。

そうした説明責任を自覚しつつ、国立女子大学としての伝統と実績を踏まえて、法人化後も本学は女子教育の拠点としての役割を先導的に果たしていくつもりである。

ところで、法人化は学生にとってどのような意味があるのだろうか。各国立大学法人は、「中期目標」「中期計画」という今後六年間の目標・計画を設定したが、他の国立大学法人と同様、本学

も教育、学生支援の充実・強化を掲げている。全学共通教育では、教養教育の充実、キャリア教育の強化などを実施していく。特にキャリア教育については、「四年間一貫のキャリア教育」の方針を打ち出し、六年度から新たに「キャリア教育科目」という柱を設定し、まず今年度後期に「現代社会と職業」(二単位、卒業に必要な単位に含めることができる)を開講する。

詳細はシラバス「葉」の当該箇所を読んでほしいが、単なる職業教育ではなく、受講生の勤労観や職業観を育成し、「女性としていかに働いて生きるか」という人生設計を各自が主体的に考えるひとつの契機になることを目指している。是非、多くの学生が受講することを期待したい。

また、前述した学生への説明責任とも関係するが、すでに行っている学生による授業評価を今後も改善しながら継続し、その評価結果を本学における教育の質の向上に反映できるように仕組みを構築していきたい。学生による授業評価はそのような目的で行っていることを学生もよく理解して、こうした取

組みに積極的に参加してほしい。

次に、学生支援の面では、予算上の厳しい制約もあるが、学生生活課を中心に教員と事務職員が連携・協力する組織的な整備を図りつつ、学習・生活・就職の各面における学生支援をできるかぎり強化する。そのためにはまず、学生の生の声に耳を傾けることから始める。

ただ、学生支援については、ひとつ注意したいことがある。それは、学生が「支援待ち」になってもらっては困るということである。あくまでも学生の主体的な取り組み・努力がある前提の上での支援でなければならない。

「中期目標」の教育目標のなかで「社会のリーダーとして活躍できる女性人材を養成する」ことが提示されている。皆さんには、主体的に考え、自ら将来の課題を探索して、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下せる能力を身に付けてほしい。

そのために本学は、ハード・ソフト両面のあらゆる教育・学生支援能力を惜しみなく提供する。

障害のある学生を 迎え入れて

刃刀 俊雄

文学部 助教授
人間行動科学科
教育文化情報学講座



TOSHIO
KUNUGI

昨年度、本学の文学部に聴覚に障害のある(聞こえない)学生、Aさんが入学しました。以下では、Aさんの入学・就学にとりまわって主として文学部で行っている取り組みの概要について紹介します。



講義保障(情報保障)

Aさんの入学の際に大学に対する要望事項を尋ねましたが、その要点は講義や行事の際にノートテイカー(要約筆記通訳者)あるいは手話通訳者を付けてほしいということでした。文学部ではこの要望に応えること(講義や行事の際の音声情報をリアルタイムで視覚情報に置き換えて伝える情報保障)を聞こえない学生に対する学習権保障の最低限の要件ととらえ、支援活動の中心に位置づけました。講義時の情報保障については概ね次のような段取りで進めています。

①受講科目の早期決定

Aさんには各学期が始まる前に受講科目を決定してもらっています。それは講義が始まるまでに次の二つの事柄を実施しないし決定しておく必要があるからです。

②受講科目担当教員説明会の開催

Aさんが受講する科目を担当する教員

に対して、板書や資料の配付など講義運営上の配慮工夫すべき事柄に関する説明会を実施しています。

③ノートテイカーの配置

原則としてAさんが受講するすべての科目にそれぞれ二名のノートテイカー(有償ボランティア)が配置されています。大学の講義という専門性を考慮して、テイカーは学生(卒業生を含む)に担当してもらっています(各テイカーは週に二コマ担当)。テイカーには事前に必ず講習会を受講してもらっています(現在約五〇名の学生・院生(所属は全学部に及び)がテイカーとして登録・活動しています)。



共に学ぶ環境づくりに向けて

講義保障以外では、より広い意味でのバリアフリーの大学づくりをめざす取り組みの環として、昨年度から今年度にかけて、①手話に関する講演会、②手話講習会などを行ってきました。とりわけ後者はAさん自身も運営の中心を担って実施されています(写真は七月二日の講習会の模様、手話通訳者養成専門学校先生の指導を受けている)。手話講習会は週一回、今後引き続き実施の予定です(詳しく

はF405研究室をお尋ねください)。文学部では昨年度は学部長の指揮の下で障害学生担当教員が上記の事柄を進めてきましたが、今年度は新設された学生支援委員会の業務の二環として位置づけられています。またこの「学園だより」が発行される頃には、全学的な障害学生支援室が立ち上げられる予定です。そこでは、障害のある学生のみならず、誰もが学び生活しやすい大学づくりを目指した奈良女子大学のユニヴァーサルデザイン化が進められることと思われます。



新任部局長紹介

①所属学部等・職名 ②所属学科等・専攻分野



OKUMURA ETSUZO
奥村 悦三

①文学部 教授 文学部長
②言語文化学科 日本語史

環境が激変するとき、適応は困難です。この適応の問題が従来キャンパスで取り上げられたのは、多く、新入生をめぐってでした。私なども、フレッシュな学生たちが手探りで少しずつ大学生生活に慣れていくのを、心配しながら見守ってきたものです。

ところが、今年は、国立大学が法人化されるとともに、私ごときに文学部長職が降りかかってくるということまであって、私自身が新しい環境への不適応に苦しみ、世に言う五月病に陥っている有様です。

しかし、人は、苦勞を克服した時期をこそ、思い出ふかい過去にできるのだと思いますから、新入生諸姉とともに、新しい環境に挑戦していきたいと願っています。



SHIGENOBU YANO
矢野 重信

①大学院人間文化研究所 教授 人間文化研究所長
②人間環境学専攻 生体機能関連化学、錯体工学

この4月から、はからずも大学院研究所長をおおせつかりました。時期を同じくして、国立大学が過去に経験したことのない、法人化に乗り出しました。世の中が流動的な今こそ個性を発揮できる絶好のチャンスとらえ、皆様と手を携えながら、本研究科を学生諸君にとって魅力あるものにしていただければと決意を新たにしております。本研究科のキーワード「国際都市奈良で高度な基礎研究と学際研究を体得し21世紀に輝く環境共生型男女共同参画社会のトップアスリートを目指す！」を実現したいと急じております。皆様方のいっそうの御指導ならびに御鞭撻の程を何卒宜しくお願い申し上げます。

新任教員紹介

①所属学部・職名 ②所属学科・専攻分野 ③出身地・出身校 (学部、学科等別SO音順)



WAKAKO NISHIBORI
西堀 わか子

①教授
②国際交流担当
③茨城県
茨城県立水戸第二高等学校
慶応義塾大学文学部

どうぞよろしくおねがいします

国際交流を担当する教員ポストを設けたのは、国立大学法人の中ではおそらく奈良女子大学が最初だと思います。しかし、このところ、旧国立大学は、大学の規模に関係なく、いくつもの大学が、これまで国際交流や留学生の業務を所掌していた組織を急ピッチで改変し、あるいは、改変しつつあります。

そこでは、たいてい、戦略的、組織的、機動的、個性的…に国際業務を推進するために新組織を作るということが言われています。

奈良女子大学が、議論を重ねた結果新設したポストも、こうした国際交流業務を展開するための奈良女子大の選択であったと思います。私自身、このことを思うと任の重さに緊張するばかりです。非力ですがどうぞよろしくご指導ご協力をお願い申し上げます。



KUMI NARUSE
成瀬 九美

①文学部 助教授
②人間行動科学科 スポーツ科学講座 身体表現学 運動心理学
③京都府
京都教育大学付属高等学校
奈良女子大学文学部教育学科
同大学院文学研究科修士課程
同大学院人間文化研究所博士後期課程

ゆっくりとした時間

自発的な運動遂行時に現われる、ちょうど良い、遅い、速いといった主観的な動作速度を脳波測定などの手法を用いて研究しています。他者との身体的コミュニケーション場面で個人の速度感とはどのように作用するのか、また、太極拳やヨガに共通する、ゆっくりとした遅い速度が心身にとどのような意味を持つのかといった問題に興味があります(本人はいつまでせうかです)。

このキャンパスでは学生として10年を過ごしました。行き話った時には東に向かい、二月堂の上があったり、若草山の裾野を歩いたり、そんな気分転換ができることも魅力の一つです。この場が学生の皆さんにとってより居心地の良いものとなりますように精一杯お手伝いしたいと思います。



EMIKO HIYAMA
肥山 詠美子

①理学部 助教授
②物理科学科 基礎物理学講座
原子核理論
③福岡県
福岡県立修猷館高等学校
九州大学理学部物理科学科
九州大学大学院理学研究科

量子力学的3体・4体問題の原子核理論研究

修士1年生の時に「無限小変位ガウス・ローブ法」という量子力学的3体・4体問題の計算法を発見し、その具体的計算法を提唱しました。そして、この方法を、ハードロン少数粒子分野、ミュオン触媒分野に適用してきました。この方法は、非常に習得しやすい方法なので、積極性のある学生は、修士1年生からこの方法を武器として、世界最前線の課題に切り込むことが可能だと思っています。大学院卒業後、ずっと研究所に在籍していましたが、奈良女子大学に着任してからは、学生と共に新しい研究課題に挑戦することによって、この計算法をさらに鍛え上げて、研究グループの共有財産としたいと思っています。どうぞよろしくおねがい致します。



NAOMI SASSA
佐々 尚美

①大学院人間文化研究所 助手
②社会生活環境学専攻 生活環境計画学講座
建築環境学 温熱心理学
③愛知県
愛知県立千種高等学校
奈良女子大学家政学部住居学科
奈良女子大学 大学院家政学研究所住環境学専攻
奈良女子大学 大学院人間文化研究所博士後期課程生活環境学専攻

きっかけ

南窓に設置された庇は、採光や風通しを遮ることなく、夏は入射を遮り、冬は採り入れ、夏涼しく冬暖かくという暮らし方に役立つことを学生時代に本で読みました。庇の重要な役割を気にもとめていなかったことを反省し、庇の価値を改めて知りました。これをきっかけとして、室内環境に興味を持ち始め、今は室内温熱環境の快適性と環境と共生した省エネルギーな住まい方を研究しています。前者は主に快適と感じる気温の個人差について本学在学中から、後者は共生科学研究センターにて取り組み始めました。

今後は、個人の特性の違いを反映した環境共生的な住まい方を、関西弁を取得しつつ模索していきたいと思っています。宜しくお願い致します。

日本学生支援機構の適格認定について

平成16年度4月から、日本育英会から日本学生支援機構に変わり、引き続き奨学金業務が行われています。第一種及び第二種奨学生については、毎年秋に「奨学金継続願」を提出する事で奨学金の継続が認定されます。手続きを怠った場合は、奨学金が廃止されますので、十分注意し、詳細については掲示板等で確認してください。

後期授業料免除について

経済的な理由により、授業料納付が困難で、かつ、学業優秀と認められる学生、又は、学資負担者の死亡、風水害等による被災などの特別な事情がある学生の授業料免除申請に対して、審査のうえ、授業料の全額又は半額を免除できる授業料免除の制度があります。

本年度の後期授業料免除出願受付等は、次の日程で行います。

■出願書類交付期間：7月1日(木)～9月30日(木)

■出願期間：9月17日(金)～10月4日(月)

■出願書類交付・提出先：学生生活課奨学援助係

生活環境学部新入生合宿研修

今年度は、生活環境学部の生活健康学専攻、食物科学専攻および住環境学専攻の新入生を対象にして、4月16日(金)、17日(土)に京都府立南山山城少年自然の家(京都府南山城村)において実施しました。1日目は教員および先輩との懇談で大学生活を送るうえで心構えを話し合い、2日目はもくもく手作りファームでウイナーづくり教室に参加し、楽しく充実した1泊2日の合宿研修でした。



学生相談室から

●学生相談室は、あなたのマインドスペースです。

学業や進路の不安、日常生活でこまったこと、対人関係など、さまざまな心配事について一緒に考えましょう。

話をきいてもらうだけでも、落ち着くこともあります。

相談室は、あなたの話にじっくり耳を傾けます。そのことで解決の糸口が見つかるかもしれません。相談の秘密は守られます。

内容に応じて適切な人や機関を紹介することもできます。

●開室日及び開室時間

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時

夏期休業中は月曜と木曜のみ開室

8月第3週と第4週、12月29日～1月3日、入学試験日(前期・後期)は閉室します。

上記以外で閉室する場合は、構内掲示板や相談室前にその旨を掲示することにより、お知らせします。

学生相談室の場所は学生会館3階です。

TEL.0742-20-3925 Eメール soudan@cc.nara-wu.ac.jp

●スタッフ

■相談受付

金 文子(月曜日・水曜日・金曜日)

岩井涼子(火曜日・木曜日)

■カウンセラー

皆藤靖子(臨床心理士)

竹村百代(臨床心理士)

■相談員

千田春彦(教員)

高橋 智(教員)前期

柳澤 卓(教員)後期

佐野敏行(教員)

平成16年度就職活動支援行事の日程

長引く景気の低迷が続くなか、一部で景気に明るさがあったと言われているものの、雇用環境は依然として厳しい状況が続いています。

このような環境のなか、学生生活課では、例年実施している学部3回生及び大学院博士前期課程1回生を対象とした就職対策プログラムの他、今年度から学部1・2回生を対象としたキャリア開発プログラムを新たに加え、より充実した形で就職支援を行いますので、積極的に参加してください。

◆就職対策プログラム(学部3回生・大学院博士前期課程1回生対象)

■就職活動ウォーミングアップ講座 6月1日(火)	●今年度の現状と来年度の展望について 企業が求める人材とは 社会・ビジネスの構図
■就職活動ステップ講座Ⅰ 6月23日(水)	●業界研究・企業研究 新聞から得る企業のポイント
■就職活動ステップ講座Ⅱ 7月8日(木)	●夏休みの過ごし方 就職サイト活用術 キャリアデザイン
■職務適性検査 7月9日(金)	
■就職活動ステップ講座Ⅲ 10月13日(水)	●就職活動の進め方
■大学院向け就職講座 10月15日(金)	
■自己分析対策講座 10月20日(水)	●自己分析・自己PR
■筆記試験対策講座 10月25日(月)	●情報収集で知っておきたい基礎知識 日経新聞の読み方・時事問題対策
■業界研究対策講座Ⅰ～Ⅲ 11月9日(火)～11日(木)	●業界・企業研究の進め方 成長企業や優良企業の見つけ方
■論作文・エントリーシート対策講座 11月15日(月)	●エントリーシートとは 具体例と対策・文章表現力
■内定者体験報告会 12月1日(水)	●各学部から内定を得た先輩方からの メッセージ
■エントリーシート対策テスト 12月2日(木)・3日(金)	
■面接試験対策講座 12月15日(水)	●自己表現力の向上 面接者の評価
■会社訪問・面接時のマナー講座 12月17日(金)	●ビジネスマナーの基本 身だしなみ・電話のかけ方(言葉遣い)

◆キャリア開発プログラム(学部1・2回生対象)

■キャリアデザインⅠ 平成16年11月中旬	●大学生の過ごし方 「学生時代夢中になったこと」
■キャリアデザインⅡ 平成16年11月下旬	●自分らしい生き方・職業選び
■キャリアデザインⅢ 平成16年12月中旬	●人生と進路選択 「10年後のライフスタイルを考える」
■キャリアデザインⅣ 平成17年1月中旬	●適職診断テスト

◆業界・業種別体験報告会(学部3回生・大学院博士前期課程1回生対象)

平成17年1月	●企業(業種・職種別)で活躍する先輩との対談 ●個々の能力・適性にあった職種、業種の選択方法とは
---------	---

◆関東地区での就職希望者のための就職懇談会

(学部3回生・大学院博士前期課程1回生対象)

平成17年2月19日(土) 佐保会東京支部	●先輩からの業種別・職種別体験報告会と東京近郊での生活について
--------------------------	---------------------------------



奈良女子大学
630-8506 奈良市北魚屋西町
TEL0742-20-3235

発行日:2004年7月1日
発行:学園だより編集委員会
印刷所:共同精版印刷株式会社